

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23010

北園小学校

「学ぶ力」	
実 態	課 題
<p style="text-align: center;"><b>成 果</b></p> <p>◇イントロダクションとして、単元全体の見通しがもてるような関わりを行えたこと、単元のゴール（リフレクション）を意識した展開としたこと。</p> <p>◇「思い」を「紡ぐ」学習の実現をするためには、子どもが「思い」をもち、表出しやすくする教師の手立てが不可欠であり、同時に、教師側が考えを整理し、まとめていくための視点をもつことが大切であると共有できた。令和7年度は特に、子どもから生まれた「思い」から「問い」を醸成するための手立て、個別探究を自信をもって行えるようにする手立て、協働探究の場で子どもの思いを「紡ぐ」ための手立てが数多くあった。</p>	<p style="text-align: center;"><b>課 題</b></p> <p>◇単元構成の段階で、個別探究や協働探究を「何のために」行うかを考える必要があった。問いが自分事になっていたか、個別探究の場面では子どもが自らの考えを十分に持っているか、協働探究の場面では子どもの思いの変容があるかを考えることが大切であった。</p> <p>◇AAR サイクルの各場面で、子どもたちがより必要感をもって学びに向かうために、教師が意図をもった手立てを講じていくことが大切であった。リフレクションの場面においては、次の活動の見通しがもてたり、新たな問題意識が生まれたり、自分の活動を振り返ったりできる手立てが必要であった。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標のアンケートにおいて、「自分が必要とされていると感じる。」「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。」の設問で、昨年度よりも肯定的な回答が大きく増えた。一方、「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。」という設問に肯定的に答えた児童は67%と他の設問と比べ低かった。引き続き、自己肯定感を高められる関わりをしながら、より主体的に学びに向かう関わりや授業の工夫をしていくことが重要である。</p>	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
<b>「思い」から「問い」を見付け、学びに向かう力</b> <b>考えを交流し、新たな見通しを持ち、学び続ける力</b>	
取 組	課 題 探 究 的 な 学 習 の 推 進 向 け て
<p style="text-align: center;"><b>自主的な活動の充実 向けて</b></p> <p>◇研究副主題「子どもが自ら学び続けるために、思いを紡ぐ学習」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いをもち、問いに繋がるイントロダクションの設定</li> <li>・思いから、子ども自身が判断をし、方法を選択できる個別探究の場の設定</li> <li>・思いを伝え合い、新たな考え・見通しをもつ協働探究の場の設定</li> <li>・新たな思いをもつリフレクション</li> </ul> <p>→単元を通じたAAR サイクル、1時間や1ユニットのAAR サイクルを意識した授業作りをしていく。</p>	<p>◇全校での運動週間（秋マッちょ）の取組</p> <p>◇休み時間における学級遊びの充実</p> <p>◇異学年との関わりに重点を置いた「あいさつのバトン」</p> <p>◇読書週間の設定</p> <p>◇委員会活動の内容見直し、全校イベントの充実</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
<p>◇ICT 活用についてのアンケートにおいて、「端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている。」の設問に肯定的に答えた児童が75%と、他の学ぶ力に関する質問と比べて少なかった。課題探求的な学習をすすめていく中で、思考が深まる学びの場面や、考えをまとめ、発表する場面等で一層活用し、学ぶ力の育成の一層の充実を図る。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>



